

会 議 録

- 1 附属機関等の会議の名称 令和6年度 第1期松川町地域福祉計画推進協議会
- 2 開催日時 令和6年10月31日 午後6時30分から午後8時00分まで
- 3 開催場所 松川町役場2階大会議室
- 4 出席者氏名
委員（敬称略）
松井悦子、米山郁子、小木曾茂、鈴木勇哉、池上幸治、佐藤尚子、寺澤美和、松下仁美
山内起見、篠田阿依、新井直彦、木下由美子
事務局
塩倉智文 北沢百合子、三宅純子、湊智矢、田中裕香、矢沢亜弓、伊藤遼太、大橋良平、林雅人
- 5 (1) 第1期地域福祉計画案について
(2) 分科会
- 6 非公開の理由（介護を非公開とした場合） —
- 7 傍聴人の数 0人
- 8 会議資料の名称
 - ・令和6年度 第1期松川町地域福祉計画推進協議会次第
 - ・松川町第1期地域福祉計画案
 - ・委員名簿
- 9 会議の概要
 - (1) 開会
 - (2) 町長あいさつ
 - (3) 自己紹介
 - (4) 正副会長選任
会長は池上委員、副会長は鈴木委員で承認
 - (5) 協議事項（進行：会長）
第1期地域福祉計画案について
事務局説明。
 - ・質疑応答なし

分科会において計画案の検討

A グループ

委 員 こども食堂、フリースクールの補助、多様な学びの場や地域の居場所づくりに関わっている。学校にいけない子どもが急増している（25人くらい）。こども食堂の食事もあるという間に無くなる。困っている人が多い。新たに事業を始めたい人を支援するような施策があると良い。松川町は広いので、様々な場所に展開し歩いて行けるくらいの距離にあると良い。参加申込ストップしていかないといけない状況になっている。25名中、8割は町内の方である。

委 員 P18の地域づくり事業に関わっている。若い人たちを入口にしながら地域の色々な人と交わろうとしている。施策的なものはターゲットが限定されている中でどう多様性を創出していくか考える必要がある。居場所があるのと同時に交われる場所であることが重要である。

委 員 サロンの部分や福祉を考える会、ふれあい広場に携わっている。サロンはコロナが

開けたあと活発になってきている。32ヶ所あり増え続けている。住民のみなさんの集まろうという機運が高くなっている。希薄化というより単位が小さくなっているのだとを感じる。サロンでの保健師の学習会などとても好評なのでぜひお願いしたい。利用者は高齢者ばかりなので、世代間交流という意味では課題がある。

委員 サロンを Hug でやってもらったら良いと感じる。子育て中、大人としゃべりたいというお母さんはとても多い。

委員 福祉を考える集会の「障害に対して～」という文言は、障害に限らないので検討してほしい。

委員 計画の作り方はこれでよいのかと感じる。チョイソコやひまわりがあるが、環境づくりに入るのではと思った。施策の整理をしないとぶれてしまう。こども食堂の補助を謳っているがどのくらい補助するとかは書いてない。そもそも総合計画は行政主体だが、この計画は住民と作りあげていく計画の目標値でもあるというのが国の方針だと思う。町がすることと住民や事業所がすることがわかりやすくなっているとよい。例えば施策の所に住民とか企業とかの項目を作り、まるをするなどしてみてもどうか。当事者をターゲットにしているような計画だが、介護者や障害児の親御さんにも悩みがあるはずだがそういうものがこの計画の中で分かりづらい。共生社会を目指す計画書であるのならもう少し施策の対象者を分けたほうが良いと感じる。

事務局 具体的な施策内容は個別計画に記載してある。共生社会の色が強いものを抽出するよう指示をしている。ガイドラインもこのような書き方で参考にしているが、役場の視点で出来ているのは事実。役場だけでは共生社会の実現は無理なので地域のみなさんに協力していただく必要がある。役割にまるをするのは分かりやすくてよいと思う。各個別計画の抜粋であることを最初に載せたほうがよい。

委員 例えば学びだったら学びだけ載せる、交流だったら交流だけ載せるなどの方が分かりやすい。一つの施策が別の章とつながっているのも分かるが少し分かりにくい。課題と施策はセットにして記載したほうが良い。

事務局 施策展開は重複しているものがある。分かりのは確かだが、施策が様々な課題へ対応しており、横断的な対応となっている。

事務局 居場所づくりと孤立の予防を防ぐのは公共交通だと考えている。チョイソコで保育園の輸送をしているがお年寄りと同乗することもあり、和やかな交流が生まれている。多世代の交流が生まれる土台になると良いと感じる。

委員 松川町は官民で話合う場が極端に少ない。寛容性を育むためには膝を突き合わせてじっくり話をする必要があるが、そこがずっと足りないと感じる。寛容性を育む機会がないのが一番の課題。対話そのものにしっかり予算をかけてしっかりディスカッションする場が必要だと思う。

事務局 多世代が深く交流できる場が必要だと思う。

事務局 こども食堂への補助をいくらにする、サロンの開催回数を何回にするといったことなどは個別計画にて記載などするため、この計画では数値目標は記載しない。数字での達成指標はウェルビーイングのみで評価予定としている。

委員 現状と課題は一緒にしておかないと見づらい。

B グループ

委員 民生児童委員は担い手不足で 3 地区で欠員している。 守秘義務等が伴う重要な業務であり、資質が問われるところもある。担い手の確保は難しい。

委員 ニコボラにおいて中学生の活躍がすごい。マイプロの活動も活発である。中学生の

- 力を借りて町を盛り上げていくことが理想である。こども達がいろいろな体験を通して興味を持ち、まちづくりへ参加したり、自分の将来につなげたりできるとよい。
- 委員 地域の人材育成どうしていけばいいか。地域や PTA の役員のなり手がいない。
- 委員 認知症の人数が増えてきている。職員も幅広く関わっている。個人主義・守秘義務など支援の拒否もあり、関わりかたが難しい。
- 委員 日赤病院でも中学生ボランティアの受け入れを行ってもらえるとよいのではないかな。
- 委員 中学生の職業体験は受け入れているが、ボランティアは受け入れていない。日赤奉仕団の皆さんにご協力いただいている。
- 委員 現在女性のみの日赤奉仕団だが、男性が入ることはできないのか。
- 事務局 日赤奉仕団の件でせっかく活動してくれていることなので、施策展開のところに追記する。
- 委員 こどもが少なくなってきた中、こどもが計画して事業を進めることが難しくなってきた。どんなことをするにも大人の手が必要と感じる。
- 委員 人と人が関わる機会を増やすことが大切である。小中学生の若いうちから活躍できる場を作ることが重要である。
- 委員 今のこども達は、知識はあるが経験がないこどもが多い。ネットでの知識だけでなく、大人の話を聞く機会を作るが大切ではないか。町の職員が学校で授業を行ったり、こども議会等を行ったりして、町のことを勉強していく機会があれば嬉しい。出席者（参加希望者）だけでなく、全員参加できるから様々な経験できるイベントがあるとよい。
- 委員 あきらめないで挑戦（伝え）続けることが必要である。

C グループ

- 委員 竹藪の問題とか山の手入れとか、地域の課題が色々あるが、ここで議論しても良いのか。
- 事務局 貴重な意見ではあるが、環境の問題は別の計画があるため、ここでは福祉施策という観点でお願いしたい。
- 委員 【今後の取組の方向性】（P26）に「専門機関同士が相談内容を引き継ぐ体制を整え、」との記載があるが、専門機関同士が互いのことを理解し合って、それぞれの役割を認識していないと、対応を引き継ぐ等の繋がりを持つことは難しいのではないかな。
- 事務局 専門機関同士の繋がりが必要だと考えていて、多機関協働事業として取り組んでいく予定である。
- 委員 こども発達センター給食費無償化事業について、これには養護学校の給食費分も含まれているのか。もし含まれていないとすれば、ぜひ検討していただきたい。
- 事務局 担当ではないため一度持ち帰り、改めて回答させて頂く。
- 委員 ひきこもりの対策はできているのか
- 委員 児童虐待相談窓口はあるが、大人の DV 被害に関してはどこに相談するのか。
- 事務局 町では福祉係が窓口となり、県の女性相談窓口に繋いでいる。
- 委員 女性相談とのことであるが、男性の DV 被害を相談できる窓口はあるか？
- 事務局 現状では明確に男性の DV 被害相談窓口を謳っている機関はない。
- 委員 いじめの問題について、こどもだけでなく大人のいじめ問題への対応は対応しているのか。
- 委員 障がい者差別の問題がある。相手を理解するための啓発活動が必要だと思う。障害

自体の理解を得るため、障害体験も有効な手立てではないか。

委員 松川の福祉はどこか抜けているところがあるような気がする。地域がもっと自主的にコミュニケーションを取ることが必要ではないか。今は、隣近所がどういう状況か、全く分からないことが多い。(ウェルビーイング指標の説明で、「地域とのつながり」の項目の偏差値が高かったが)上っ面だけで繋がっているように見えるだけ、もっと深いところでの繋がりが必要ではないか。

全体会にて情報共有

事務局説明。

委員 地域福祉計画が重要なポジションにあたる。個別計画とどのくらい連携されているのかお聞きしたい。社協の計画とも連携しているのか。

事務局 社協の計画は昨年策定されており、まだ連携はできていない。上位計画という位置づけにはしているが、地域共生社会を達成しなさいという国の方針に基づき、個々の計画では見せづらい共生の部分を中心に作られている。

委員 再掲が多い理由は分かるが、中心的な部分や力を入れていく部分はどこなのかというのも見たいので、検討してもらいたい。

事務局 承知した。今後のスケジュールについて、今回の意見で反映できるものは反映させ、再度お示しする。

事務局 この計画は3月議会で制定され令和7年4月からスタートする予定である。

(6) 閉会（副会長）

以上